

新潟市民病院医誌について

新潟市民病院医誌が冊子体から電子化へ

新潟市民病院医誌は昭和 55 年 3 月に創刊され、令和 6 年に 45 巻の刊行を迎えます。近年では雑誌等の電子化が進み、病院年報や病院雑誌を直接 HP に掲載したり、電子ジャーナル共同プラットフォームに参加して記事を発表したりする施設が多く見受けられるようになりました。

当院もそのような時世の流れに従い、医誌の冊子体での刊行をやめ、すべて電子版へと変更することにしました。

当院医誌は令和 6 年 12 月より J-Stage に登載することが決まり、以後こちらで継続的に刊行します。また、以前より掲載していたメディカルオンラインへも引き続き掲載致します。

下記 URL をクリックすると J-Stage 上の当院医誌の頁が表示されます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/niigatacitygenhosp/-char/ja>

一転載許諾について一

当院刊行物の転載許諾については、株式会社メテオが受け付けています。

当院刊行物の転載許諾について、他出版物への転載をご希望される場合は、下記のサイトから、必要書類（著作見本、著者承諾書）を添えてお申し込みください。

申請サイト: <https://mp.medicalonline.jp/>

※ユーザー登録が必要です。（登録料無料）。

連絡先: permission.group@medicalonline.jp

（株式会社メテオ コンテンツ部 許諾担当）



〈表紙の説明〉

ウィリアム・オスラーの胸像

新潟市民病院は、1973年に医聖ウィリアム・オスラー（1849～1919）の教えた「患者中心の全人的医療」を基本理念として開院しました。これは1985年に病院正面玄関前に設立されたオスラーのブロンズ胸像で、新潟大学教育学部彫塑研究室の渡辺利雄教授の制作です。

オスラーはアメリカのペンシルベニア大学、ジョンズ・ホプキンス大学、イギリスのオックスフォード大学の内科教授を歴任し、良い医師と看護婦の育成に情熱を傾けた偉大な教育者でした。「医療は患者と共に始まり、患者と共に在り、患者と共に終る」と、また「医療はサイエンスとアートとヒューマニティを一体に行うべきもので、患者の人間性を尊重せよ」と患者中心の全人的医療を教えています。

この胸像は、「患者が中心である医療、市民に信頼される病院」の心を象徴し、全職員がいつまでもこの初心を忘れることなく、日々努力を続けることの誓いの印です。

（新潟市民病院名誉院長 笹 川 力）